

[成果情報名]パレイショ「さんじゅう丸」の秋作栽培における出芽安定のための種いもの夏期貯蔵方法の低コスト化

[要約]パレイショ「さんじゅう丸」の秋作栽培用種いものを7～8月に24℃で貯蔵すると、同期間22℃で貯蔵する場合（夏期貯蔵モデル）と同等の上いも重が得られ、冷房費用の低コスト化を図ることができる。

[キーワード]ジャガイモ、パレイショ、さんじゅう丸、秋作栽培、種いも、休眠、出芽

[担当]長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・馬鈴薯研究室

[連絡先](直通)0957-36-0043

[区分]いも類

[分類]指導

[作成年度]2014年度

[背景・ねらい]

そうか病に強く、多収で外観が良いパレイショ「さんじゅう丸」（長崎県育成、2012年7月品種登録）は急速に普及が進んでおり、2013年には県内で105ha作付けている。しかし、秋作栽培用種いものを夏期に常温貯蔵した場合に、種いもの休眠が明けず、植付け後に出芽しにくい症状が見られる。そこで、本品種の秋作栽培における出芽安定のための種いもの夏期貯蔵方法（夏期貯蔵モデル）として、7月に22℃、4℃または常温で貯蔵し、8月に22℃で貯蔵することで、種いもの休眠明けが安定し、秋作栽培において出芽率が高まり、出芽期が早く生育および収量が高まることを報告した（ながさき普及技術情報第33号16）。しかし、2ヶ月間の冷房による貯蔵はコストが大きいとため、低コスト化できる温度を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 7～8月に24℃で貯蔵すると、22℃で貯蔵する場合と比べ、休眠期間および上いも重は同等である（表1）。
2. 7～8月に26℃で貯蔵すると、22℃で貯蔵する場合と比べ、休眠期間は長くなり、上いも重は低い傾向である（表1）。

[成果の活用と留意点]

1. 夏期貯蔵モデル（新）を目安に種いものを貯蔵できる（図1）。
2. エアコンの設定温度を1℃上げると使用電力を約13%削減できる（環境省試算）ため、7～8月の間24℃で貯蔵すると、同期間22℃で貯蔵する場合より、冷房費用の低コスト化を図ることができる。
3. 7月に4℃または常温で貯蔵し、その後8月の貯蔵温度を24℃または26℃にすると、22℃の場合より上いも重が低くなる（データ省略）。

[具体的データ]

表1 夏期の貯蔵温度・期間の違いによる休眠明け・生育の違い

処理区	貯蔵温度		休眠明け率(%)		休眠日数(日)	出芽率(%)		出芽期(月/日)	上いも数(個/株)	上いも重(kg/a)	上いも1個重(g/個)
	7月	8月	8月2日	8月30日		10月10日	10月21日				
1	26℃	26℃	60	100	77	0	100	9/26	4.1	280	103
2	24℃	24℃	93	100	69	10	100	9/26	4.9	354	109
3	22℃	22℃	87	100	67	10	100	9/26	5.1	371	109

【休眠特性調査の概要】

供試品種:「さんじゅう丸」

種いも : 県内春作産種いも

貯蔵温度: 常温、22℃、24℃、26℃

貯蔵期間: 5月中旬～: 常温

7月～8月: 常温、22℃、24℃、26℃

～9月上旬: 常温

調査方法: 塊茎の芽長が5mmに達した時点を休眠明けとし、休眠明けした塊茎が調査塊茎の半数を超えた日を休眠明け期とする

【生育調査の概要】

種いも : 各種温度・期間貯蔵し、休眠明けした種いもを使用

植付け期: 2014年9月9日

収穫期 : 2014年11月25日

施肥量 : N:P₂O₅:K₂O=1.40:1.12:0.84 (kg/a)

栽植密度: 666株/a(畦間60cm×株間25cm)

調査内容: 出芽期、生育、収量性

出芽した株が調査株の半数を超えた日を出芽期とする

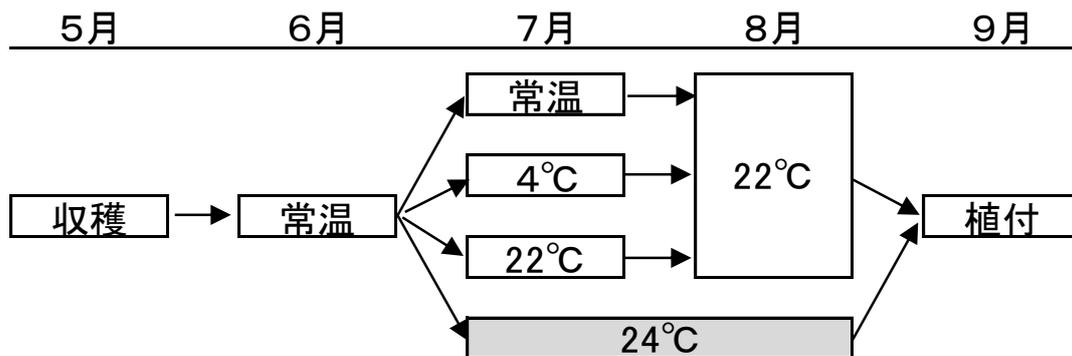


図1 「さんじゅう丸」の秋作栽培用種いもの夏期貯蔵モデル(新)

[その他]

研究課題名 : 「さんじゅう丸」の品種特性を活かす栽培技術の開発

予算区分 : 県単 (経常研究)

研究期間 : 2014年度

研究担当者 : 坂本悠、森一幸、松尾祐輝、中尾敬